

令和6年度 第2回村上市民の命の大切さと心の絆を深める自殺対策検討委員会 会議録

会議名	令和6年度 第2回村上市民の命の大切さと心の絆を深める自殺対策検討委員会
日時	令和6年11月5日(火) 午後2時00分～午後3時00分
会場	村上市役所4階 大会議室
出席者	<p><b>【委員等】</b>  野田委員長、関副委員長、佐々木委員、板垣委員、木ノ瀬委員、  佐藤竹四委員、齋藤研委員、忠委員、齋藤茂雄委員、長谷川委員、  関谷委員、寺澤オブザーバー  ※欠席：川崎委員、的場委員、渡辺委員、佐藤克哉委員</p> <p><b>【関係課】</b>  福祉課 佐藤課長補佐、学校教育課 木村指導主事、  消防本部警防課 藤島係長</p> <p><b>【事務局】</b>  保健医療課：船山課長補佐、中川課長補佐、工藤係長、小池主査、寺澤主任  荒川支所地域振興課：小林課長補佐  神林支所地域振興課：東海林課長補佐  朝日支所地域振興課：田嶋課長補佐</p>

議 事 録

- 1 開会
  - ・委員15名中11名の出席により会議が成立している旨の報告
- 2 自己紹介
  - ・名簿順に自己紹介
- 3 委員長及び副委員長選出
  - ・委員長に野田委員、副委員長に関委員を選出
  - ・野田委員長挨拶
- 4 協議題
  - ・委員長による進行
  - (1) 村上市自殺対策行動計画(第2次)素案について
  - (2) 今後のスケジュールについて
  - ・村上市自殺対策行動計画(第2次)素案、資料1及び資料2により事務局から説明

委員長：委員の皆様から御意見、御確認したいことがあれば、お願いいたします。

委員：素案についてですが、私たちが修正するのでしょうか、それとも修正したものが事務局から送られてくるのでしょうか。

事務局：今日の委員会では、事務局が修正した箇所を委員の皆様にご確認いただくとともに、御意見をいただき、それを素案に反映したいと考えています。その後、事務局でもう一度見直しを行い、パブリックコメントに付す素案を委員の皆様にお送りして御確認いただく予定です。

委員：素案の6ページから8ページの表記について提案があります。6ページでは「1基本施策に関する取組状況と評価（1）評価項目」とあるのを「1評価項目」にまとめ、7ページでは「（2）事業の取組状況」を「2基本施策に関する取組状況」とし、8ページでは「2重点施策に関する取組状況（1）事業の取組状況」を「3重点施策に関する取組状況」とすれば、分かりやすくなるのではないのでしょうか。

事務局：そのように整理させていただきます。

委員長：ほかに御質問などはございませんか。

（意見なし）

委員長：それでは、今後のスケジュールについて事務局から説明をお願いします。

事務局：第1回委員会におきまして、今年度は委員会を4回開催したいという案をお示しましたが、委員の皆様から御指導、御意見をいただきながら素案を作成することができ、内容的にはおおむね固まったのではないかと考えておりますので、今年度の委員会の開催を3回とさせていただければと思います。今後、事務局で再度確認を行い、各担当課にも最終チェックをお願いしてパブリックコメントに付す素案を完成させ、委員の皆様にお送りし、御確認いただく予定です。また、パブリックコメントでの御意見があった場合には、その内容を踏まえ、必要があれば修正を加え、再度皆様にお送りしたいと思います。その後、3月6日又は3月12日に第3回委員会を開催させていただき、その際に答申していただきたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

委員長：今後、各委員に修正された素案が送られてくると考えてよろしいのでしょうか。

事務局：そのように予定しております。

委員長：何か御意見はありませんか。

（意見なし）

委員長：皆様のお手元に3枚のチラシをお配りしました。これからいろいろな催しがありますので、関心のある方には積極的に参加していただければと思います。よろしくお願いたします。  
ほかにございませんか。

委員：今回の計画では、女性や高齢者に対する内容が手厚くなったと思います。支援や予防という観点で計画を立てて、今後6年かけて実施していくことになると思います。  
義務教育の子どもたちが、これから中学生、高校生、大学生になり、社会に出るとなったときに、大人になってからでは固定観念があり、新しい知識が入りにくくなります。学校ではSOSの発信という対策を実施されていると思いますし、高校生になれば保健体育の授業で精神疾患について学びますが、学校の中でしっかりと授業を受けられない子どもたちがそのまま大人になって苦しんでいるという事実があり、また、今までの様子を見ますと、やはり精神科に対

する偏見というものが少しあるのではないかと思います。そこで、子ども、若者のうちから精神疾患に対する教育や取組を学校や企業で行うことが、子ども、若者の力を育て、精神科受診へのハードルを低くし、子ども、若者のゲートキーパーの育成にもつながるのではないかと思います。

また、20 から 30 歳代の独居女性から電話をいただいた際、誰か一人でもつながっているという気持ちがすごく勇気づけられると話していました。「あなたの担当の〇〇です。何かあったら連絡くださいね」と伝えるような関係をつくる取組は、決して難しいことではないと思います。何か大きなことをやるというのではなく、小さな取組を計画に加えていただけるといいのではないかと思います。電話をかけてくださる人は、自尊心が低い人も多く、自信を持ってと言われても持てない、受け入れられないといった苦しみの中で育ってきています。自尊心を上げるよう、小さな取組を重ねていくことが、最後の最後で自殺という手段をとる前の歯止めになるということで、大切なのではないのでしょうか。それぞれの計画が連携されているということも大事ですが、具体的にどう動くのかが一番大事だと思います。あまり無理をしないでできること、こうした取組を重ねて、評価していく。そして、6年間で20から30歳代の自殺率がどのくらい減ったのかということが評価にもつながっていくのではないのかと思いました。個を育てていくという感じで取り組まれていくと更によいのではないかと思います。

委員：ここ数年、村上市のゲートキーパー養成講座の講師として関わらせていただいておりますが、縁があってこの委員会に参加することになりました。自尊心への配慮、高齢者に「自分の担当は〇〇」と伝えるという考え方は本当に大切なことで、ゲートキーパー養成講座でもお話しさせていただいています。そういう考えを持っている方が地域にいるということは大変心強いと安心しながら聞いておりました。人とつながっていくということは、先ほどの自尊心の話ともつながるのですが、承認欲求を満たすということをゲートキーパー養成講座でもよくお話ししています。また、子どもだけでなく、大人もときどきは褒めてもらいたいですし、「頑張っているね」と言ってくれる誰かがいてくれるから頑張れるというような話もしています。

これから未婚の人が増え、家族を持たない人の多い地域となっていくとき、今まで家族が行っていた支援を行政や地域の方たちで支え合っていくような地域をつくっていきませんかという提案をずっとさせていただいています。先ほどおっしゃったようなかたちで、地域の皆さんが支えていくような仕組みをつくり、ふとした折に「頑張っているね」と声を掛け合えるような地域を目指していけばよいのではないかと思います。

また、子どもに関しては、県教育委員会を中心とした別の仕組みがあります。市だけで全てに対応するのは難しいと思いますので、県と市が役割分担し、連携しながら実施していくとよいのではないかと思います。

オブザーバー：村上市のホームページを見ると、自殺とアルコールということで力を入れているという印象を受けますが、計画の中には盛り込まれていなかったように思います。今後、村上市が自殺とアルコールというところでも取り組んでいこうという計画があるのであれば、追加してみてもどうでしょうか。村上市はアルコール依存の方も多く、自殺につながるリスクもありますので、検討してみたいと思います。

木村指導主事：個別に様々な課題を抱える児童・生徒については、医療とのつながり、特に発達外来などに通ったり、学校としてもつなげたりといったケースは年々増

えているように思います。また、児童・生徒が困ったときに、このようなつながり先があることをどうやって教えていくかという点では、SOSの出し方教育の中で実施していくのがポイントになると思います。学校だけでSOSの出し方の学習を進めるのではなく、保健師、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーなどにも加わっていただき、専門的な立場から指導してもらえる機会を持てたらと思います。

委員長：ありがとうございました。

事務局：アルコールにつきましては、成人の生活習慣病の指導を継続して行っていきますので、生きる支援の中に反映させるかたちで検討したいと思います。

委員長：ほかに質問はよろしいでしょうか。質問がないようですので、進行を事務局に戻したいと思います。

#### 5 その他

事務局：第3回委員会の開催日につきましては、決まり次第、事務局から御連絡したいと思いますので、よろしく願いいたします。

#### 6 閉会

・副委員長挨拶